

会長メッセージ

「ポストコロナに想う 終わりと始まり」

令和2年、波乱に満ちた6か月が過ぎ、折り返し点の7月を迎えました。新年には今年は4年に一度のオリンピック・パラリンピックが東京で開催される年でもあります、世界中からも大勢の人々が訪れ、大いににぎわい発展する年となるものと期待し、希望に満ちた正月を迎えました。

ところがそこへ、頭から冷水をかけられる様な大騒乱、「新型コロナウイルス感染症」が発生し、瞬く間に地球規模で拡がり情勢は一変、東京オリンピックは1年延期、春の行楽シーズンの一番好い時節に緊急事態宣言が発令され、スポーツも文化活動も経済活動も社会活動もあらゆる活動が制約されひたすら家に閉じこもるガマンの日々になってしまいました。

吟界においても予定されていた競吟大会やイベント



総本部会長 地藏哲愷

などあらゆる吟詠活動が中止、会員一人一人にとって、生活の一部であった教室での稽古も出来なくなり、3か月に亘ってひたすら謹慎生活・自粛の日々を余儀なくされてしまいました。

私達は人生一〇〇年時代だからこそ、吟詠で「豊かな老後を」、「健全な生活を」をモットーに今日まで吟詠普及活動を行ってきましたが、この半年このような不自由な体験をしてみても、これまで如何に「詩吟に生きる活力をいただいていた」か、「共に楽しむ仲間に勇気をいただいていた」かを痛感しています。会員の皆様とお会いし、声を出し楽しく過ごした日々が懐かしく、一日も早く元の生活に戻りたいと強く念じ今は我慢の毎日です。

日本は長い間戦争の無い平和な国、安全な国と信じ